

■ 蒸気タービン開放点検 ■

東京23区の清掃工場は、ごみを燃やして発電をしています。

大田清掃工場は、定格発電出力22,800 kWの蒸気タービン発電機で発電していますが、今年度の定期補修工事（一年に一度、焼却炉を停止して各種点検補修を行う工事）で新工場しゅん工後初めて開放点検を実施しました。

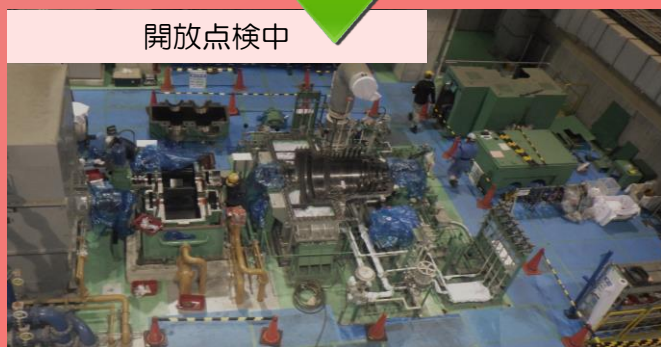
出力が1,000 kW以上の蒸気タービンは、電気事業法により4年に一度このような点検を行わなければなりません。

とても大がかりな点検になりますが、普段は隠れて見えないタービンローター（羽根車）など、内部を見ることができ数少ない機会でもあります。

4年間働いてきた蒸気タービン発電機ですが、大きな異常もなく点検結果は良好でした。今日も元気に働いています。

※タービンローター

タービンローターは、蒸気タービンの中心となる部品です。これに蒸気をあてて、回転させることで電気を作り出しています。



放射能等測定結果

大田清掃工場では、排ガス・焼却灰等の放射能濃度、敷地境界・灰処理設備等の空間放射線量率を定期的に測定しています。

右表は、平成29年7月から12月までの敷地境界での空間放射線量率の測定結果です。大田区が定期的に定点測定している区内の値と大きな差はありません。

なお、排ガス・焼却灰等の放射能等の測定結果については、清掃一組のホームページで公表しています。

測定月	空間放射線量率	
	単位：μSv/h	
	敷地境界	大田区内
7月	0.03~0.08	0.05
8月	0.03~0.08	0.06
9月	0.04~0.08	0.05
10月	0.03~0.07	0.05
11月	0.03~0.09	0.05
12月	0.04~0.09	0.05

※地表の高さ1mでの測定結果です。

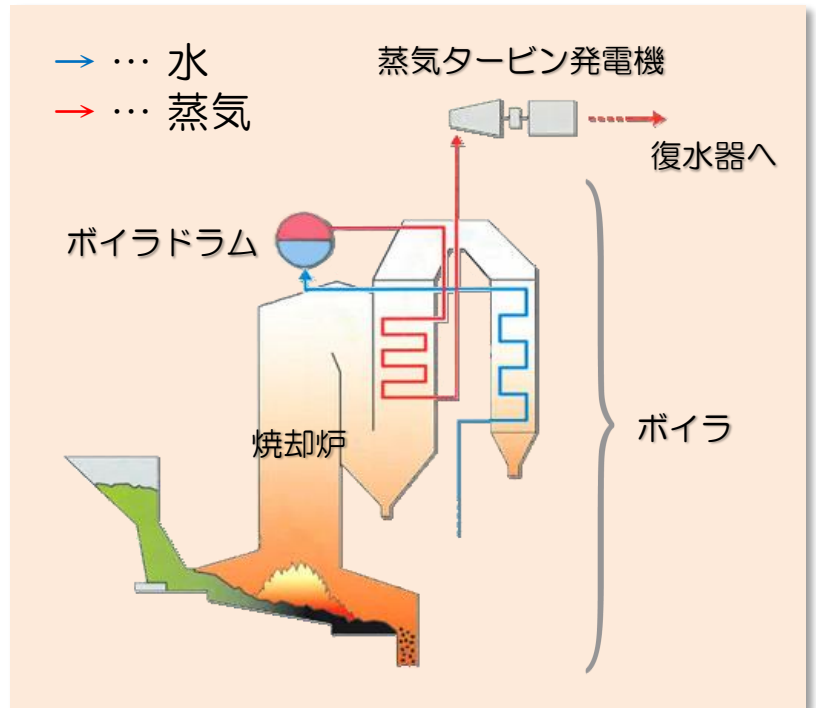
施設紹介 ～ボイラ編～

このコーナーでは、ごみの流れに沿って大田清掃工場の施設を紹介します。今回は清掃工場でエネルギー利用の一翼を担う「ボイラ」の紹介です。

「ボイラ」とは、燃料を燃焼させて、その熱エネルギーを用いて、温水または蒸気を作り出す装置のことを指します。

清掃工場では、ごみを燃やした熱で蒸気を作り、そのエネルギーを利用しています。

蒸気タービン発電機で発電を行ったり、余熱利用設備で温水を作ったりと、さまざまな方法でエネルギーを回収した後、蒸気は復水器と呼ばれる装置で水に戻り循環しています。



☆大田清掃工場には、縦20メートル横6メートル、高さがおよそ30メートルもあるとても大きなボイラが設置されています。

ボイラから出ていく蒸気は設計上、およそ4MPa、400℃で、一時間に発生する蒸気量は44tです。そのエネルギーを計算すると約34,400,000kcalになります。

これは、大人一人のおよそ48年分の食事と同じくらいのエネルギーです。
(大人一人の一日分の食事=1,950kcalとして計算)

工場見学会のお知らせ

大田清掃工場では、「個人見学会」と「団体見学」を実施しています。
詳しくは、下記をご参照のうえ、大田清掃工場までお問い合わせください。

受付人数		実施日	実施時間
個人	9名以下	毎月第2土曜日	13:30~15:00
団体	10名以上	月曜日~金曜日(祝日を除く)	9:30~11:00又は13:30~15:00

※年末年始、定期点検補修工事期間を除く



《見学のお申込み・お問合せ》

大田清掃工場 Tel 03-3799-7555
受付時間 月曜日~土曜日 9:00~17:00